

第2回国際ワークショップ 「沖縄における知的・産業クラスターの形成を目指して」 (要旨)

ワークショップの概要

開催日： 2012年3月29日(木)、30日(金)

主催： 沖縄科学技術大学院大学

後援： 沖縄県

参加者： 沖縄の产学研官の関係者、国内及び海外の起業家、有識者等40人
(県内18人、県外22人(うち海外からの参加者7人))

検討テーマ： ① 人材の確保・育成に向けた戦略
② 起業家活動を促進する金融・ビジネス基盤の整備
③ 国内外のネットワーク形成とインフラストラクチャー

検討結果のポイント

- 知的・産業クラスター形成には、産業界、投資家、大学、地方公共団体等、さまざまな主体が必要であり、特に、卓越した基礎研究を行う大学等の存在は不可欠。しかし、地域の関係主体がバラバラな状態ではクラスター形成はできない。
- クラスター形成に向けた取組を企画、調整、実施、モニタリングするため、新たに自律的に運営される推進組織の設置が必要。

(推進組織に求められる要件)

- ① 自律的な運営 (県、大学、その他の機関に属するのではない独立した非営利法人とし、運営や事業に必要な資金については、多様な財源を確保)
- ② 明確な目的とビジョン (沖縄をアジアのハブ(中心)、そして日本と世界をつなぐゲートウェイとして、世界的にブランド化)
- ③ 地域と世界が参画するガバナンス (県内の関係機関の代表者に加え、起業家活動等の世界的リーダーが運営の管理・監督に参加)
- ④ 多様な課題に対応できる高度な専門性を持つスタッフ
- ⑤ 柔軟で結果を重視する事業展開

(設立までの流れ)

県内の产学研官の協力を得て、今年度前半にタスクフォース(準備委員会)を設置し、来年度中の発足を目指す。

- 知的・産業クラスターの形成には、起業家活動が促進される環境の構築に向けて、幅広い取組を一体的に実施するアプローチが必要。ワークショップでは、短期的又は長期的に実施すべき取組として、7つの分野において45のアクション・アイテムが提言された。主な提言事項は次のとおり。

① 教育

- 大学との連携により、県内の高校に理数系の特進プログラムを創設（沖縄型スーパー・サイエンス・ハイスクール制度等）
- 県内の学生・生徒に対し、国際的な科学技術・工学系の大会への参加を奨励・支援
- 県内の高等教育機関の間で、沖縄の振興に関し連携関係を構築

② 優れた人材の採用

- 国際的かつ質の高い保育施設や小中学校・高校を設置するとともに、配偶者の雇用機会の提供や緊急時の外国語での情報提供等、外国人家族の受入れを支援

③ 起業家精神の普及

- 沖縄の起業家養成プログラム（IT Frogs 等）や、そこから生まれたサクセスストーリーについて、県民への普及を推進
- 沖縄型の「アントレプレナー・ブートキャンプ」を開始
- 県内若手起業家の協議会を創設し、学生・生徒に対する起業家教育等を支援

④ ビジネス基盤

- 沖縄が世界的に競争力を持ち得るニッチな市場を見つけ、地域のリソースを当該分野の能力向上に重点的に活用
- イノベーションの推進や商品開発の加速化を図るため、特定の分野・産業を対象とするオープン・リソース・センターを設置

⑤ 金融基盤

- 大学・高専発のベンチャー企業を対象とするベンチャーファンドを創設
- 世界的なベンチャーキャピタリストの協力を得て、県内でベンチャーファンドのディレクターを目指す者に対し、教育やメンタリングの機会を提供

⑥ ネットワーク

- 国際的に活躍する多様なリーダー層を沖縄に呼び込むため、重要な課題をテーマとする世界的な会議・大会等を誘致・創設
- 沖縄を世界に発信するため、世界のウチナーンチュ（県系人）ネットワークと連携。専門的なスキルや経験を持つ県外・海外在住の沖縄ファン・サポーターとのネットワークを発掘・構築

⑦ インフラストラクチャー

- OIST キャンパス内の将来ゾーンに、ベンチャー企業のインキュベーション機能と技術移転により OIST と産業をつなぐ「トランシスファー・ゾーン」を整備
- アジアの主要都市とつなぐLCC（格安航空会社）の参入を促進。米国、欧州、アジア（シンガポール等）との直行便の開設に努力